

西口 遥

Nishiguchi Haruka



Q. 当局の魅力

職員一人一人が大切にされている職場であることです。

仕事については、個人で行うというよりは、チームで協力して行っています。その中で、自身の経験に応じた量の業務を任されており、仕事を負担に感じて悩むことはありません。ミスをしてしまっても同じ課のみなさんが優しくフォローしてくれますし、同じ課以外の職員からも、困っているときには声をかけてくれるので、温かく、働きやすい職場だなと感じています。加えて、財務局では若手職員を中心に、地域連携を推進する活動を行っており、若手職員にも活躍できる場があります。

また、ワークライフバランスの面では、有給休暇はもちろん、フレックスタイム制なども設けられており、課内で調整しながら、各種制度を取得しやすい雰囲気にあります。

このように、一人一人が色々な面からサポートされているので、安心して働ける職場です。



▲休日に仲のいい若手職員でハーブ摘みに

Q. 入局前後の印象

入局前後で印象が変わったことは、残業に関する点です。入局前は残業が多いことを覚悟していたのですが、実際には必要があれば残業する程度であり、通常は定時で退庁しています。

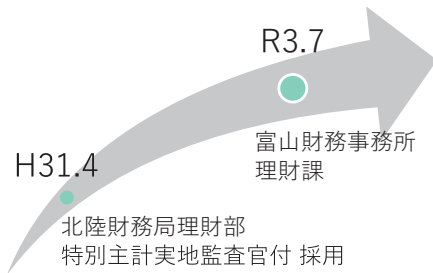
他に印象が大きく変わったことはなく、大学時に参加した業務説明会のときに思ったとおりで、優しくて明るい職員が多く、お話しして楽しい方ばかりです。

また、想像通りデスクワークが多いです(配属課にもよりますが)。入局前は、「営業とか外に出る仕事の方が気楽でいいな～」という安直な考えで外出の多い仕事に憧れることもあったのですが、実際に仕事してみると、仕事終わりに体力的な余裕があるので、平日帰宅してから趣味なども楽しむことができます。

Q. 受験生へのメッセージ

私の就活時は、筆記試験のことで頭がいっぱいで、実際に働くイメージを全くもっておらず、「受かればどこでもいい!」と思ったりもしましたが、いくつかの業務説明会に参加して、職員や職場の雰囲気を見たことで、最終的には「絶対北陸財務局がいい!」とまで思うようになりました。説明会では、お話しできる職員に限られ、職場全体の雰囲気を掴むことは難しいかもしれませんが、「いいな」という直感も大事だと思います。

試験勉強で手一杯だとは思いますが、是非説明会に参加して雰囲気を感じてみてください。



山 和希

Yama Kazuki



Q. 仕事のやりがい

本局・特別主計実地監査官では、予算執行調査(国の事業が適切に実行されているかどうかを全国規模で調査し、予算に無駄がないかを調べるもの)を行っています。この調査では、財務局職員が財務省の担当部署に対して、調査対象とする国の事業を提案することができます。そのため、提案が採択されれば、全国規模で自身の関心のある事業の調査を行うことができ、大きなやりがいがあります。

富山財務事務所・理財課では、富山県内の金融機関(銀行、信用金庫、信用組合、金融商品取引業者等)の監督を行っています。金融のプロの方々と議論を重ねる日々は、非常に新鮮で充実感を得ることができるとともに、自身の成長に繋がっていると実感しています。



▲打ち合わせの様子



▲趣味のマンドリン

Q. 当局の魅力

当局の魅力として真っ先に思い浮かぶものとしては、ワークライフバランスが重視されていることです。

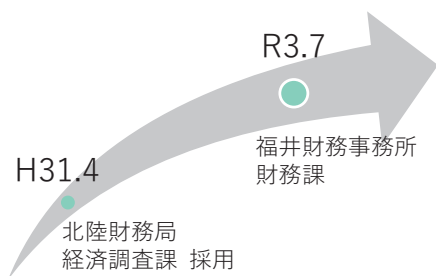
休暇はとても取りやすい環境で、私は基本的に月1日以上休暇を取得しております(ちなみに当局では年間16日以上以上の休暇の取得が推奨されております)。また、テレワーク環境も整っているほか、フレックスタイム制も多く職員が活用しております。

仕事だけではなく、きちんとプライベートの時間も取りたいという方にはおすすめの職場だと思います！

Q. 受験生へのメッセージ

就職活動中、様々な官公庁や会社の業務説明会が開催されると思いますが、できる限り積極的に参加してみてください。パンフレットからは手に入れることのできない情報を得ることができますし、「この官公庁(会社)、こんな仕事をしているんだな…」という気づきの後々になって役立つこともあります。初めのうちは、できる限り就職先の選択肢を絞らず、広い視野を持つということも大切なことだと思います。

そして、是非ご関心があれば、北陸財務局の説明会にもお越しいただき、財務局の業務や魅力などをさらに詳しく知っていただけると嬉しいです！



堀 達哉

Hori Tatsuya

Q. 入局前後の印象

公務員を志望したころは、正直なところ財務局のことをほとんど知りませんでした。

業務説明会に参加してみて、財政や金融の幅広いフィールドで、かつ専門性の高い仕事をしていると聞いて、難しい仕事をしている職場だと思いました。一方で、説明を聞いているうちに、職員が仕事に対して使命感や充実感を持っている職場だと感じました。

実際に働いてみて、職員が長所を活かして連携しながら仕事をする中で、「より良く」を目指している職場だと感じており、これが説明会で感じた使命感や充実感に繋がっているのだと感じています。



▲アフター5も趣味の筋トレで充実

現在、福井財務事務所で、地方公共団体への財政融資資金の貸付に関する仕事をしています。国の資金を活用して、地域の課題解決やインフラ整備などを支援することができ、ダイレクトに地域貢献ができることにやりがいを感じています。

Q. 当局の魅力

一言でいうと、「コンパクト」であることが当局の魅力だと思います。もちろん異動範囲が北陸三県であることも魅力の1つかもしれませんが、それ以上に、フットワークが良く、職員同士の顔が見える、ということを大きな魅力として感じています。

北陸財務局は、他の財務局と比べて規模は小さいですが、他の財務局と同様に幅広い業務を行っているため、多様な業務を経験できます。また、分からないことや不安なことは経験豊富な先輩に気兼ねなく聞くことができます。このほか、RPAの導入など、業務効率化にも積極的に取り組んでいます。

このような環境にいるため、日々の業務の中に成長や研鑽の機会がたくさんあり、多くのことを吸収できる日々を過ごしています。

Q. 仕事のやりがい

国と地域という2つの視点を持って仕事ができることにやりがいを感じています。

経済調査課では、北陸地域の現状や先行きについて調査・分析する仕事をしていました。新型コロナウイルス感染症の影響など、経済を取り巻く環境が変動したときに、地域に密着している財務局として、北陸経済の現場の声を財務省に届けたことや、調査結果がテレビや新聞で報道されることをやりがいに感じていました。

H27.4 北陸財務局理財部 金融監督第一課 採用
 H28.7 北陸財務局理財部 融資課
 H29.7 富山財務事務所 財務課
 R1.7 富山財務事務所 管財課
 R3.7

湊屋 あずさ

Minatoya Azusa



Q. 仕事のやりがい

私は現在、富山財務事務所管財課で国有地の管理処分に関する業務に携わっています。具体的には、土地の境界確定や売払申請への対応を行ったり、実際に現地に行って国有地の状況を調査したりしています。管財業務では地域の方々から土地に関する相談を受ける機会も多くありますが、様々な案件に対応していくことで専門分野への理解がより深まり、自分自身の成長に繋がっていると感じています。

また、国有地の管理処分を行うにあたって、どのような方針で進めるべきなのか悩むこともあります。上司と検討を行いながら対応策を決定し、無事に案件を完了することができたときには大きな達成感があります。



▲打ち合わせの様子

Q. 勤務地について

北陸財務局は、本局が石川県、財務事務所が富山県と福井県にあり、基本的に北陸三県が勤務地となります。転勤の周期は決まっているわけではありませんが、私の場合は採用されてから5年目に本局から富山財務事務所へ配属となりました。

就職先を選ぶにあたって転勤があることをネックに感じる方もいるかもしれません。私も転勤があることに最初は不安を感じていました。でも実際に転勤を経験してみると、住んでみることで今まで知らなかった地域の良さを発見できたり、その土地ならではの体験を楽しんだりすることができるので良かったと感じています。また、地域のことを深く知るという経験は地域に関わる財務局の仕事を行ううえでも役に立っているなど実感しています。

Q. 当局の魅力

公務員を目指す方の中には、「地域に貢献する仕事」がしてみたいという思いはあるけれど、具体的にどんな分野の仕事がしたいのか決まっていない方もいるのではないのでしょうか。財務局の仕事は財政、金融、経済調査、国有財産といった多岐にわたる業務を行っており、若手のうちにいろんな部署を経験することで、自分の適性にあった分野を実際に働きながら探していくことができます。

また、「働きやすさ」も北陸財務局の魅力だと思います。他局に比べると規模は小さいですが、その分職員同士の距離が近くて相談しやすい環境です。分野ごとに仕事内容は大きく変わりますが、どの部署でも困ったことがあれば優しく丁寧に教えてくださる方ばかりなので、今まで経験していない分野の仕事でも安心して取り組むことができます。